

力持ち（日高町知見）

むかし、知見村に又太郎という力持ちがいました。知見村から二里半（一〇キロメートル）ばかり北の石井村には十左工門という力持ちがいました。どれくらい力持ちかといって、二人とも、それはそれは大変な力持ちでした。

又太郎の力持ちについては、こんな話があります。

又太郎が、わらで、はっそう縄（今の太いロープ）をないました。強い力でよじりあげるのでできた縄は、まるで木の棒のように固く一間半（二・七メートル）ぐらいの長さであれば、少しもゆがまずまっすぐ立ち、それどころか、その縄で天井板をつくると、板がはずれたり板に穴があいたりしたといひます。また、高さ七尺（二メートル）もある割木の二間ぐまを運ぶのに、さす棒の前と後にくくりつけて、一度に持ってしまったというくらい力持ちでした。

一方の十左工門については、こんな話が伝わっています。

ある時、十左工門が草を刈って帰りましたが、草のたばの中に何か固いものがはいつています。おかしいなと思つて中をみると何んと、岩をいっしょに刈つて帰つていたのです。

また、相撲をとるのに、孟宗竹をひきぬいて、まわしにしたともいわれています。

この二人、大の仲よしでしたが、よく力比べをしました。

或〈あ〉る日のこと、二人は、アズキの五斗俵でキャッチボールをしようということになりました。又太郎は知見のトンガリ山の頂上に立ちました。十左工門は、五斗俵をもって石井の千芝の上に立ちました。十左工門が、トンガリ山めがけて五斗俵をヨイショと、ほうりなげると、又太郎が、ふらつきもせずみごとに受け止めました。こんどは又太郎が、千芝の十左工門めがけてヨイショと投げかえします。十左工門もみごとに五斗俵を受け止めました。見ていた見物人たちは、やんやのかっさいをしました。が、俵を受け止めた時十左工門のひざがすこし曲がつたので、又太郎の勝ちということになりました。

